

平成24年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	留学生対象授業を活かした国際交流の実践的研究
------	------------------------

研究代表者

氏名 清野泰行	所属 美術・書道講座	職名 教授
------------	---------------	----------

研究分担者

氏名	所属	職名

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

本学には、様々な国と地域から訪れた交換留学生在籍しており、マンガやアニメーション、音楽や映画を通して日本に興味を持った学生も少なくない。留学生対象授業「Study of Japanese Print-Making」は、日本美術の代表である浮世絵木版の体験学習が可能な希有な授業であるが、本研究では講義・演習という通常の授業枠から出て、浮世絵版画で使用されてきた和紙などの素材・道具にも目を向け、伝承技術を学習した。また、実技制作における研究成果を公表、さらに学生による木版の摺りイベントを行うことで、実技体験、美術鑑賞を通じた国際交流の可能性を研究した。

① [素材・道具研究]

文化庁の選定保存技術に認定されている浮世絵彫摺技術によって作られた復刻版木や復刻版画を使用することで、江戸時代から継承される技術を鑑賞するだけでなく、実際に扱うことで浮世絵版画の制作のしくみなどを、実体験から学習する。素材や道具を知ることは、こうした技術のバックボーンを知る上で貴重な経験となることから、福井県今立町にある3カ所の紙漉き工房に赴き、制作現場の撮影、紙制作者のレクチャーを受け、紙漉きに関わる資料収集を行った。実施場所は以下の通りである。

紙漉き見学ツアー

日時：平成24年12月7日

場所：・岩野平三郎製紙所工房見学（岩野平三郎氏によるレクチャー）
・紙の文化博物館（作品鑑賞）
・岩野市兵衛工房見学（人間国宝 9代目岩野市兵衛氏によるレクチャー）
・M0紙工房見学（沖茂八氏によるレクチャー）

② [展覧会の実施]

特に西欧からの留学生が多く知る葛飾北斎の富嶽三十六景の復刻版木10種を用意し、復刻版画や制作ビデオなども参考に、当時と同じ工程で摺り制作を実施。完成した作品は、第1むさしのホール1Fコリドーにおいて「第1回留学生浮世絵木版画展」で公開した。また、会期中に留学生による摺り体験イベントを企画・運営し、多くの学生・教職員が伝統浮世絵木版画（復刻）を鑑賞し（のべ人数200名以上）、内数名は留学生の指導のもと、輪郭線主体の版（主版）の摺り体験を行った。これらの活動の様子は、ビデオ・写真撮影した。

「第1回留学生浮世絵木版画展」

－復刻浮世絵木版版木を使った体験学習の成果として－

日時：平成25年2月12日（火）～18日（月）

場所：第1むさしのホール1Fコリドー

内容：1.短プロ授業「Study of Japanese Print-Making」履修生による作品展示
2.摺り体験イベントの実施 2月18日（月）12:00～14:00

研究成果発表方法

東京学芸大学芸術・スポーツ科学系紀要に論文投稿予定。
学内外における講義、公開講座等で発表（ビデオ・写真による）予定。